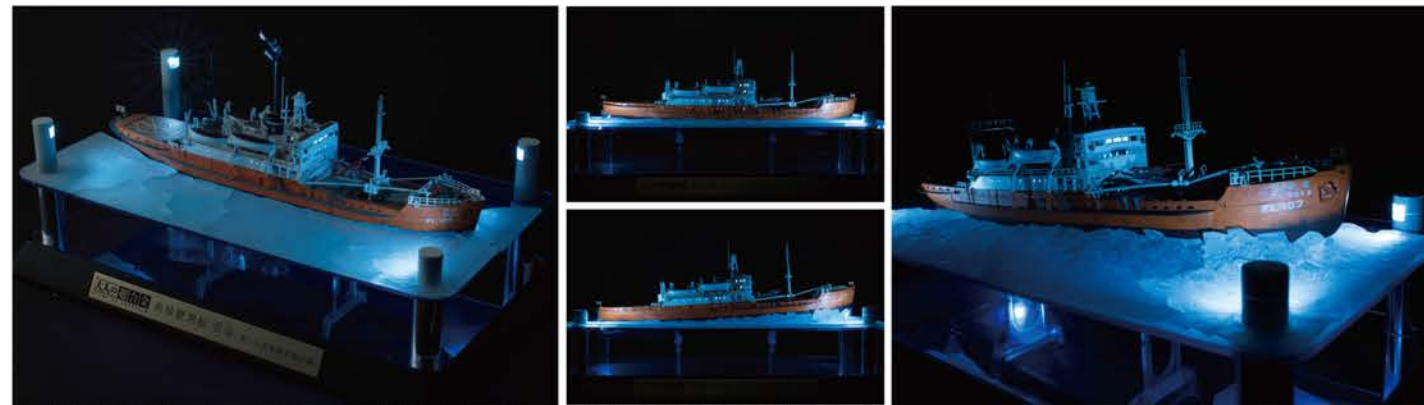


完成品で甦る「奇跡の船」。

南極大陸接岸時(第一次観測)の「宗谷」を再現



南極大陸接岸時の宗谷を徹底再現



■南極大陸接岸時のイメージでディスプレイ可能。ディスプレイスタンドには、照明位置の調節が可能で、発光ギミック搭載のボールを設置。 ※ディスプレイスタンド用:付属のACアダプター、もしくは単3電池×4本使用(別売り) ※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。

大人の超合金
OTONA NO CHOGOKIN



曳航用の鎖を金属チェーンで再現。



ON/OFFスイッチにより船内のLEDが点灯。
※本体用:単3電池×2本使用(別売り)



クレーンは手動で可動。



スクリープロペラと舵は手動で可動。



船体後部のセーフティネットをエッチングパーツで再現。



格納ハッチは開閉可能。内部にはヘリコプター2機を搭載可能。

ディスプレイスタンド

南極観測船
宗谷

セット内容



- 大人の超合金
南極観測船 宗谷 (第一次南極観測隊仕様)
- 発売日: 2013年1月下旬(予定)
メーカー希望小売価格: 49,350円(税5%込)
サイズ: [本体]全高約115mm、全幅約60mm、全長約335mm
[ディスプレイスタンド設置時]全高約170mm、全幅約410mm、奥行約230mm
- スケール: 1/250
パッケージサイズ: W435mm×H250mm×D255mm(予定)
素材: PVC、ダイキャスト、ABS等
カード入数: 2
パッケージ形態: サック箱
電池: 単3電池×6本(別売り)
JANコード: 4543112-75640-4
- ※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。 ※発売日、商品仕様、セット内容は、予告なく変更される場合がございます。ご了承ください。

日本中が力を結集した壮大なプロジェクト「奇跡の船・宗谷」の運命の記録と商品仕様映像「大人の超合金 南極観測船 宗谷」資料DVD

(受付期間:2012年9月19日(水)~2013年1月31日(木)当日消印有効) を無料で差し上げます。

資料請求先
資料DVDご希望の方は、郵便ハガキに
1)郵便番号、2)住所、3)氏名、4)年齢、5)電話番号、6)ご意見・ご希望、を明記し、下記宛て郵送でご請求ください。
〒104-8691 東京京橋支店私書箱47号「バンダイ 宗谷係」
※ハガキ一枚一口、お一人様一回限り、発送先は日本国内のみになります。 ※資料DVDは数に限りがありますので、受付期間内におきましても無くなり次第、終了させていただきます。 ※お申込みの締切りが過ぎてからの資料請求はお受けできません。

【お問合せ事務局】「バンダイ 宗谷事務局」(平日10:00~17:00土日祝日、年末年始除く) ☎ 0120-347-077
※個人情報の取り扱いについて
お客様からいただきました個人情報は、「大人の超合金」の販売に関するご連絡等にも利用いたします。 お客様の個人情報をお客様の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。(法令等により開示を求められた場合を除く)

大人の超合金 「大人の超合金」の情報は公式ホームページで http://tamashii.jp/special/o_chogokin/

ケータイでも情報チェック!
<http://tamashii.jp>

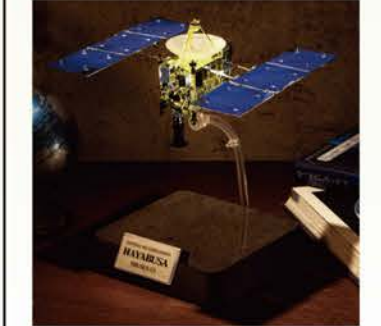
大人の超合金
OTONA NO CHOGOKIN



第一弾 アポロ11号&サターンV型ロケット
2012年11月発売 メーカー希望小売価格 52,290円 (税込)



第二弾 スペースシャトル エンペーパー号
2012年12月発売 メーカー希望小売価格 47,250円 (税込)



第三弾 小惑星探査機はやぶさ
2013年12月発売 メーカー希望小売価格 24,190円 (税込)



第四弾 新幹線0系
2013年12月発売 メーカー希望小売価格 78,750円 (税込)

※上記アイテムは商品切れしている場合がございます。

大人の超合金
OTONA NO CHOGOKIN

1/250 scale 彩色済完成品



SOYA 南極接岸シーンを徹底再現

協力: 船の科学館 ※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。 ※パンフレットに掲載されている画像は全て試作品です。

情報は2012年9月現在のものです。
発売日は予定です。発売日、商品仕様、セット内容は、予告なく変更される場合がございます。
価格はメーカー希望小売価格に消費税5%が加算されています。

株式会社バンダイ
コレクターズ事業部
東京都台東区駒形1-4-8 〒111-8081

日本国民の願いを南極へと導いた **昭和の奇跡**

宗谷

南極観測船

(第一次南極観測隊仕様)

南極観測船
宗谷

戦後、荒廃から立ち直りつつある時
南極への国民の「夢」をのせ出港した宗谷。
今再び苦難の時、
宗谷は国民の思いを乗せ 船出する。

高尾一三(元宗谷三席航海士)



随伴する「海霧丸」から撮影された暴風雨の「宗谷」。
【提供:神田康三氏(船の科学館)】



接岸中の「宗谷」前にて松本船長(左)と航海科乗組員。
【提供:三田国民(船の科学館)】



大嵐来潮に突入し、ヒレをかきつけた「宗谷」。
【撮影:鎌倉直臣氏(提供:船の科学館)】

不可能を可能とした奇跡の船 南極接岸の偉業が「大人の超合金」で甦る。

※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。



数々の苦難を乗り越えて実現した南極大陸接岸の“奇跡”を1/250スケールで再現。

日本戦後復興の象徴となった奇跡の船

——日本がひとつになった、あの日。

「もはや戦後ではない」とのフレーズが「経済白書」を飾ったのは昭和31年のこと。焼け野原の戦後復興期から、科学技術の時代に入った日本が、国際社会復帰の初舞台としてプライドを賭け挑戦したのが、世界各国で進められた「国際地球観測年」の南極観測事業だった。

その国際的計画に参加が認められた日本で、観測船の白羽の矢が立ったのは、耐氷構造を持つ旧日本海軍特務艦「宗谷」。戦後、灯台補給船になっていた宗谷には、政府予算のほか、子供たちを中心に集められた寄付金1億4500万円が投入され、戦艦「大和」の設計者、牧野茂の下、短期間で改装が施された。改装の基本方針は、船首の傾斜角の変更や両舷にバルジを設ける等、南極観測に対応したもの。その際、砕氷の邪魔になる横揺れ防止のビルジキールを外すなどの作業も行われたが、ケープタウン沖の暴風圏では、最高片舷62度の横揺れを起こした(復路)という。

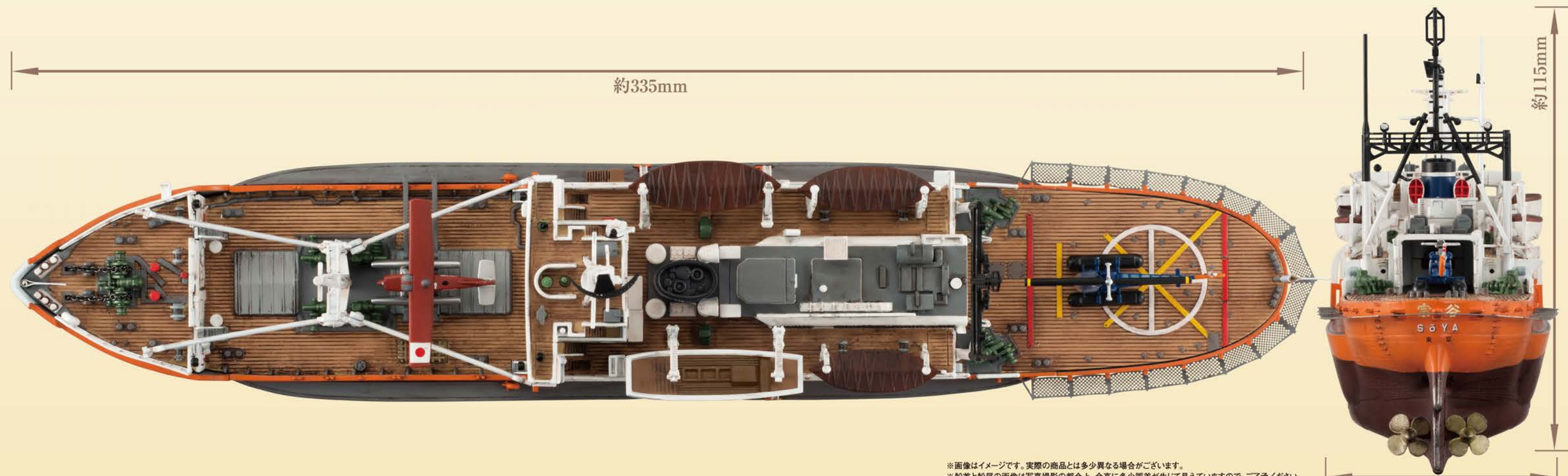
昭和31年11月——国民の期待を一身に背負った宗谷と第一次南極観測隊は、南極プリンス・ハラルド海岸を目指し、晴海ふ頭を出港。「奇跡」と呼ぶべき偉業、南極大陸到達を大成功へと導いたのだった。そして、その後の第二次以降も、宗谷は数々の難局を乗り越え、南極観測に多くの実績をもたらしていく。

昭和37年、6回に及んだ南極観測船の役目を無事に終了した宗谷は、第一管区海上保安本部所属の巡視船となり、北海道でのパトロールに従事した後、昭和53年に解役。現在は、東京の「船の科学館」前の水域に係留展示され、戦後復興の象徴として激闘の歴史の語り部となっている。

最高片舷62度を再現
ケープタウン沖の暴風圏で宗谷は、最高片舷62度に及ぶ横揺れに見舞われたが、これを見事に切り抜けた。このもつとつの高揺れを、チヌアプレックスを使用することで再現可能。宗谷が起した幾多の奇跡に、戦後の日本は歓喜した。数々の難しい局面を乗り越え、南極観測に多くの実績をもたらしていった。

砕氷型船首
宗谷が南極観測船へ改装される際、最も大きく手を加えられたのが船首である。砕氷船は、船首と自重で前面海域の水を割りながら進めなくてはならない。そのため、耐氷構造を持つ宗谷の船首にも、さらなる改良が施され、板厚25mmの鋼板製、喫水線に対して傾斜角27°の鋭角的な新船首とし、またアンカーセレスの位置も変更され、砕氷型へ大改装された。

バルジ
宗谷の船体側面の水線下に取り付け、浮力と復元力を増加させるバルジも、増設された部分のひとつ。砕氷の時には、内部のタンクに注水し船体を左右に傾かせ、水海ではチャージング(砕氷のため前後進を繰り返す動作)後、船体を横揺れさせ、乗り上げた氷板上から離脱するが、その際も船を元の角度に戻す復元力と、二重構造の耐久力は重要である。



■宗谷、南極大陸までの航路



■宗谷の軌跡

- 昭和13年(1938) 2月 ロシア向け耐水貨物船「ボロチャエベツ」(のちの宗谷)進水
- 昭和13年(1938) 6月 「ボロチャエベツ」、船名を「地領丸」と変更して竣工
- 昭和15年(1940) 6月 「地領丸」、日本海軍の特務艦「宗谷」として改装工事完了
- 昭和20年(1945) 8月 「宗谷」、空襲で終戦を迎える
- 昭和20年(1945) 10月 「宗谷」、引き揚げ業務に従事する
- 昭和25年(1950) 4月 「宗谷」、灯台補給船となる
- 昭和30年(1955) 11月 日本の南極観測への参加を閣議決定
- 昭和31年(1956) 3月 「宗谷」の南極観測船への改装工事に着手
- 昭和31年(1956) 10月 南極観測船「宗谷」改装工事完了
- 昭和31年(1956) 11月 「宗谷」、第一次南極観測へ出発
- 昭和32年(1957) 1月 第一次南極観測隊、南極大陸オングル島に公式上陸し、「昭和基地」と命名
- 昭和32年(1957) 10月 「宗谷」、第二次南極観測へ出発
- 昭和33年(1958) 11月 「宗谷」、第三次南極観測へ出発
- 昭和34年(1959) 10月 「宗谷」、第四次南極観測へ出発
- 昭和35年(1960) 11月 「宗谷」、第五次南極観測へ出発
- 昭和36年(1961) 10月 「宗谷」、第六次南極観測へ出発
- 昭和37年(1962) 4月 「宗谷」による南極観測を終了
- 昭和37年(1962) 6月 「宗谷」、巡視船へ改装
- 昭和37年(1962) 8月 「宗谷」、巡視船として北海道の第一管区に着任
- 昭和53年(1978) 7月 「宗谷」、解役
- 昭和54年(1979) 5月 「宗谷」、「船の科学館」にて一般公開開始

宗谷(第一次南極観測時)データ

竣工	: 昭和31年10月10日改装
総トン数	: 2,497.6t
純トン数	: 843.4t
排水トン数	: 4,235.1t
信号符号	: JDOX
平均喫水	: 5.4m
全長	: 83.3m
幅	: 12.8(15.8※バルジ含む)m
深さ	: 7.0m
造船	: 日本鋼管浅野船渠
所属	: 海上保安庁
主機械	: ディーゼル機関
回転数	: 210
馬力	: 2,400BHP × 2
最大速度	: 13.9ノット/時速25.7km
航海速度	: 12.5ノット/時速23.15km
推進機数	: 2
航程距離	: 12.5ノットで14,950海里(27,687.4km)
乗員数	: 77
観測隊員数	: 53
搭載航空機	: ベル47G型ヘリ × 2 セスナ180型 × 1



※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。
※船首と船尾の画像は写真撮影の都合上、全高に多少誤差が生じて見えていますので、ご了承ください。